

<b>名古屋丸の内ロータリークラブ</b> <b>Weekly Report</b> 例会場 名古屋グレストンホテル TEL 052-264-8000 例会日時 木曜日 12:30 クラブ会報広報委員長 松尾雄二郎 HP <a href="http://rc.nagoya-seinarl.org/">http://rc.nagoya-seinarl.org/</a>		2016-17年度RIテーマ 会長 ジョンF.ジャム 	承認 1995328 会長 森田 正樹 幹事 成田 勝彦 事務局 名古屋市中区栄3-29-1 名古屋グレストンホテル 1007号 TEL 052-263-1324 FAX 052-263-0730 Email <a href="mailto:seinarl@fancyo.cnrn.jp">seinarl@fancyo.cnrn.jp</a>
<b>森田正樹会長 年度目標</b>		<b>ロータリーに学び、参加し、楽しもう</b>	

<b>第1035回 例会</b>	<b>No. 35 平成29年 4月27日 (木)</b>
■ ローターソング	「それでこそロータリー」
■ 出席報告	会員47名中26名出席
■ 出席率	60.47% 出席計算人数43名
■ 修正出席率	4月16日 95.35%
■ スピーカー	川原弘久さん

作る。名古屋丸の内ロータリーという名前はつくづくいい名前だなと、それを考えたのは僕だよ、とかなり宣伝してきました。名前が体を成すというか、イメージですね、丸の内だと名古屋でも真ん中にあるのではないか、結構中心じゃないか、というイメージを植え付ける。ということで、益々丸の内ロータリーが発展することを願って私のご挨拶とさせていただきます。

**会長挨拶** 森田正樹  
 こんにちは。



久しぶりの例会です。先週岡山丸の内RCに訪問し交流を行ってきました。非常に歓待されまして、こんなにしてもらって次回どうなっちゃうんだろうと不安になりました。基本的に2次会もほとんどお金を取ってもらえない状態で、全部接待していただいたので、次年度は大変だろうなど少し心配してます。例会でも、非常にプログラムもよく、皆和気あいあいで、ダンスを踊って楽しかったです。基本的には「丸の内」という名前が一緒というだけの理由で友好締結をただけなのですが、これはこれで何かのご縁で継続していく。たまたま同じ名前だったと言うご縁で仲間になって、お互いに会の交流を深める。ロータリーの一つの醍醐味でもあります。岡山の人是非常に素朴で、名古屋へ来たいなという意識も高いので、ぜひ来期は、みんなで接待したいというのが感想です。お話した中で名前ということで、名前をつけるのにはどんなのがあるのかということで、色んな占いか、やはり音ですね、音が色んな事をイメージを

<b>ニコBOX</b>
●本日は「会員卓話」です。川原弘久さん、どうぞ宜しくお願い致します。 森田会長、成田幹事、加藤、小原、岩田、松尾、宮崎、矢野、安藤、水野、今村、藤田、安江、立石、中野、山崎、後藤、渡邊、西川、長谷川、大橋、亀井、高山 (敬称略)
川原さん 本日は小生の卓話です。お耳を汚します。 ●春の健康感謝ニコニコDay 森田会長以下23名 <b>本日合計 96,000円</b>

**米山功労者表彰**



米山功労者 有沢祥子さんに記念の盾と感謝状を贈呈しました。マルチプル米山功労者 安江英雄さん、岩田宏さん、松尾雄二郎さん、森田正樹さんにはすでに表彰感謝状伝達済みです。また、クラブにも感謝状をいただきましたのでご披露致しました。

**会員卓話**  
**「金の話」**

川原弘久  
 医者が、なぜ金のお話をするか皆さん不思議だと思います

が、これも実は医療からスタートしているんです。日本の医療費と言うのは今、32兆円くらいになっています。

この構成は、皆さん方がお払いになる健康保険料と、税金です。税金が今3割くらい入って、32兆円の医療費を構成しているんです。皆さんの健康保険料だけでは、医療費を賄えないんです。32兆円という、ものすごく大きなお金の思えるかもしれませんが、1億2千万人の国民に対して決して多くないんです。

日本は、殆ど無料に近いような値段で医療を受けられますから、それが証拠に国公立病院あるいは日赤を含めて、公的病院の80%は赤字なんです。

80%赤字だということは、例えば自治体病院だと市民税から補填してるんですね。

我々民間病院は補填がないですから、自力でやらなければいけません。そうやって自治体病院というのは補填してもらって経営してるんです。

その分、医療費が足りないということです。だからそれは医療費を増やすか、病院をもっと減らして統合施設にするしか手がないわけですが、どこの市長さんも病院やめるとは言いません。それは自分の政治生命がかかっているから。従って、全く赤字で垂れ流しの病院でも、そのまま維持されちゃうんですね。それにしてもなぜ、日本はこんなに医療費いるんだろうと自分で分析しましたら、国税から3割医療費が入ってくるからということです。そうすると、国の財政が厳しくなると当然その3割は入りにくいわけですね。だから昨今では、年金や介護含めて、常に社会保障を抑制すると言う話しか出てこないんです。これもわからないでもないですよ。国民の生活に直結しますので、簡単にできるかという問題があってそうしているのだけれども結局は、介護費用も医療費もどんどん上がっていくんですね。そうすると、3割をこの国がなぜ出し渋るかというそれははっきり言って国の借金が問題だという風に思っています。現在の赤字国債は860兆くらいあると思いますが、それ以外の長短の借入を含めると、大体国が1200兆、地方が200兆くらいの借金を持ってるとですね。そうすると大体1400兆。国民の金融資産は1800兆と言われてますので、国民は個人も法人も入りますが、まだ400兆くらいは借金できるという話もありますが、実はそうはいかないと私は見ています。なぜかと言うと、今大体100兆くらい1年に国家予算を組んでますね。税収は今は少し景気が良くなって40兆から50兆の間だと思います。50兆前後ですね。そうすると残りは赤字国債を発行しているわけですね。従って毎年今30兆から40兆からの赤字を補填して、日本という国は国家経営しているわけです。そうしますと、毎年30から40兆の借金がずっと積み上がっていくわけです。それが1800兆までになった時は、もうおしまいなんです。だけどそこへ行くまでに、赤字国債発行するとき、どこかが買わなきゃいけないわけです。で、東海東京証券とか三菱UFJとかいろんないわゆる国債を買う機関が買わなきゃダメなんですよ。しかし三菱UFJは、もう降りました。このシンジケートから。危ないということで。残りの銀行はまだ買ってまして、おそらく野村証券なんかも買ってるでしょう。

だけど、銀行が買う国債というのは、ようは我々の貯金で買ってるわけですよ。郵貯もそうですよね。ところが、これから高齢者がどんどん増えてきますと、年金で生活できませんから、当然貯金を喰いつぶして生きて行くわけで、1800兆ある金利差がどんどん減っていきます。そうしますと、銀行と言えども機関投資家と言えども、だんだん国債を買いにくくなっていき、ある時財務省が発行した国債が、未達になる可能性がある。その未達がいつか、Xデーはいつか、という風に僕は考えています。私は日本円だけで貯金するのは危ないなと思ひ、何とかそういう危機の時にそれを防衛する手立てはないかなと思っただけです。一般的には外貨貯金とかいうのもありますが、ユーロはもう危ないですね。ドルは世界に均一通貨ですからまだいいんですけど、為替は危ないわけですよ。その時々の方勢によって、上がったり下がったりしますから、それで一番安全な資産を保持するのはやっぱり金じゃないかということに行きついたわけですよ。

最初にちょっと衝撃的なお話をしたいと思いますが、いざということで、私は家内にも勧めて私自身もへそくりを円だけでなくできるだけ金で持とうと思って、やってきました。昨日それがうっかり家内にばれまして、これはまずいなと思って、孫の為に買ってやったんだと言って言い逃れましたけど、まさかへそくりもやってるとは言えませんでした。



昨年の1月に実は、僕はオーストリアの金貨が好きなので、これを買ったのですが、15万1千円でした。昨日ですね、僕の影響を受けて、秘書が先生私も買うと言うので、一緒に連れて買いに行きました。16万5千円なんですよ。1年で10%の利回りを金は作ったんですよ。金は株なんかと違って、その利を求めるものじゃないんですね。財産を安全に保全するためにやるもので、金の売買というのはされていますけど、利息を求めて持つものじゃないと言われてきましたが、今日皆さん方銀行で定期預金普通預金含めて一体どのくらい利子を銀行からもらってますか？ほとんどゼロに近いでしょう。私は、うちの職員たちに言うんですけど、なんでそんな利子が貰えないようなところに、お金預けておくんた。とってこういう例を出すんですよ。金を去年買ったなら今年10%の利回りだったわけです。いつもいつもそんなわけには行きませんよ。ただ、金はローマ時代から一貫としてロングスパンでは下がったことないんです。上がりっぱなしなんです。金は

年間 200 トンしか選出されないんです。これもどんどん金鉱山減ってきていますからだんだん減ってくと思います。数年前の話で金の需要は大体 4000 トンだと言われてました。でももう新しく補填できるのは 2000 トンであって、2000 トンはリユースなんです。例えば、装飾品を金が上がったからといって売りに行く。そういうのを潰してまた純金とか24金にするわけです。

それで賄ってたわけですね。従って、金はそんなに採れないし、世界で今のくらい金があるかと言うと、オリンピックプールの 4 杯分しかないと言われてます。一方、経済をよくするために各国が何をやってきたかと思ったら、EU、アメリカ、日本、日本は今もやっていますが、金融緩和をやってきたわけですね。金融緩和って言葉はいいんだけど、実はお札を刷ることです。1 万円札一枚たったの 20 円で出来る。だから金融緩和がいくらでもやれるんですよ。刷るだけだから。アベノミクス 3 本の矢と言ってますが、一番やりたかったのは、金融緩和なんです。これもアメリカの指示でやったと私は見てますけども、紙幣はどんどん増える、だけど金は増えないわけです。ですから当然のことながらその差が開いていく一方ですよ。最近こういう本が出ました。金は間もなく今の 6 倍になる、という本が出ました。いつかということとははっきり書いてないです。6 倍だと今回 16 万で買った金が 100 万になるな、それが数年後だったら大儲けですよ。それは、だから金融緩和とどんどんどんどんやると言う風になってくると、そういう事になりますよ。もう一つ、金のもう一つの特徴はリスクがある時には金で持つと言うことなんです。だから今まさに北朝鮮の問題を考えてみてください。アメリカがばーんと攻撃したら、瞬間的戦争が起きますよね。その影響は日本に来ます。あるいは、北朝鮮が日本へ攻撃をかけるかもしれない。軍事基地持ってますからね。横田とか、佐世保とか沖縄へ、ポーンと攻撃やったら、日本は戦争状態になります。戦争はインフレを必ず起こします。物を壊すので当然あとで再生しなくてはならないから、必ずインフレを起こします。だけど、今この日本がこれだけ借金を持った状態でインフレが起きたら、私はいっぺんに悪性インフレになると思います。私は戦前生まれですから、戦後、日本は悪性インフレになって政府は無茶苦茶赤字国債を発行して調達したのを、国民が買わされたんですが、戦後それは紙くずになりましたね。僕はその時の記憶がいまだに残っていますが、僕は母親に連れられて、母親は自分の着物をもって近くの農家へ食料品の交換に行ったんですよ。当時、バスといってもガソリンがないので、木炭バスですよ。それに揺られて食料品と交換するというのが、5、6歳の時でしたがその印象が今もって頭に残っています。だから悪性インフレというのはものすごく怖いという風に私は脳裏からその現象が離れないんですね。そう思ってみてくると益々、僕は 20 年前からこの国はいずれ財政破綻するだろうと、ずっと研究してきましたけど、昨今の北朝鮮の情勢からもし、一時的に戦争が起きるなら、あつと言う間にこの状況は作られるんじゃないかと思えますし、これがうまく避けられたとしても、まだ金融緩和はやっていきますし、日本はそれから赤字国債

は、どんどん発行せざる得ないので、いつかは、国債未達で誰も買わなくなったと言うところから国債が暴落して円が暴落して一挙にハイパーインフレになると言う時代が来るだろうなと思っています。X デーがいつかっていうだけの問題です。

エコノミストたちは色々言ってますが、色んな本を読んでもみますと大体オリンピック以後は非常に危険が高くなると言われてます。しかし、そう難しく考えないで、僕は単純に、職員たちに言ってるのは、あなたたち銀行で貯金してても、一銭もならないでしょ。という事です。株で逃げると言う手もありますが、株はね、絶対安定安全な商品じゃないし、僕は株やってもうけさせてもらった事は一度もないです。全部ひどいマイナスになってますから。

ゼネラルモーターズの株を買わされたら、リーマンショックが起こって大暴落して、もう泣く泣く投げ売りしました。そういう点で金は非常に安全で、ローマ時代からロングスパンで見ると金は下がったことがない。1970 年代ぐらいだと 1g 200 円くらいだったそれが、30 年くらいかかって今日今 1g 5000 円ですよ。だからロングスパンで見ると金は必ず上がってくるので、私は非常に安全な資産かなと思っています。

これは僕のこれまでの勉強の成果を皆さん方にお話ししてるので、別にみなさんがどういふ風におやりになるのか構いませんが、私は、少なくとも最低限今銀行に預けていくのはバカらしくて全然意味がないので、職員たちには、たとえ 100 万でもいいから金を買いなさいと、そうすれば、10%の利回りがついて 110 万になる、と話をしているのですがそれがなかなかやらないんですよ。先生はお金があるけど、私はお金がないからできないと言いますが、金がない奴ほどやった方がいいと。もし悪性インフレになった時に、一番不幸なのは、お金のない人なんですよ。先ほど母親の話をしましたが、今の日本でそういう現象が起こった時に、一体今の高齢者は何を売るんですか。売るものがないんです。今時、着物や車をもってお百姓さんのところへ行き食料品に代えてくれといつても、もうみんな持ってますよ。売るのは自分の持っている不動産しかないということです。そういう時代だったら不動産が格安で手に入るといふでしょう、間違いなく。だから私はそういうリスクがひとつは北朝鮮の問題、これがうまく逃げられたとしても、やがて来る国債未達というときが、それも X デーはいつ来るかなと読んで、今から自己防衛をしていこうと思っています。

ありがとうございました。

#### 例会のご案内

◎5月4日(木) 祝日

◎5月11日(木)第1036回例会 クラブフォーラム「青少年奉仕」  
名古屋中央RAC トラエフ サイドフォンさん

◎5月18日(木)第1037回例会 例会変更  
「社会奉仕＝古本回収友愛夜間例会＝」

あるく川名 新美恵理子様ほか

知っているようで知らない「ロータリーの友」の歴史をロータリーの友WEBより抜粋転載させていただきます。

### 『友』のあゆみ

#### 新しい雑誌の発行が決定

1952(昭和27)年4月、第60地区の大会が開催されました。同年7月に迎える新年度(1952-53年度)から、日本の地区は、東日本と西日本の2地区に分割されることに決定されていましたので、主催者も参加者も、共に深い感慨をもって臨んだ特別な地区大会でした。この地区大会では、いくつかの問題が話し合われましたが、その一つに、日本の2地区で共通の雑誌を発行するとの決定がありました。これまで共に活動してきた日本のロータリアンが、分割されてからも緊密に連絡を取り合い、情報を共有するための機関誌として、企画されたのです。

第1回の準備会は大阪で、当時の星野行則ガバナーと露口四郎氏(共に大阪ロータリークラブ)が幹事役となって、東京、横浜、京都、大阪、神戸の各クラブの代表者が出席して開催されました。

#### 『ロータリーの友』と命名

新しい雑誌について本格的にいろいろなことが決められたのは、同年8月16日、岐阜市の長良川河畔にあった大竹旅館での会合においてです。1953(昭和28)年1月から、毎月発行すること、価格を50円とするが、広告を取って100円分の内容のある雑誌とすること、名前を『ロータリーの友』とすることなどが決定されました。

また、この会合では、新しい雑誌を縦書きにするか横書きにするかで意見が分かれ、全会員による一般投票を行ったところ、2対1の割合で、横書きが採用されることになりました。戦後10年もたっていないという時代背景を考えると、この結果は、当時のロータリアンが、いかに先進的な考えをもっていたかを知ることのできるエピソードです。

岐阜での会合で、広告を取ることが決定したものの、当初は発行部数が3,300部にすぎなかったこと、また、戦後の混乱が少し落ち着いたというものの、まだまだ経済的には厳しかったこともあり、広告のスポンサーを見つけることは容易なことではありませんでしたが、創刊に携わったロータリアン自らが走り回り、苦労して広告を取ったという逸話が残っています。

創刊号は富士山の表紙です。この表紙、1月号から6月号まで、絵柄は全く同じものでした。北斎の「凱風快晴」という題の作品です。8月号から9月号は、広重の「舞子の濱」という作品で、表紙の写真や絵が毎月替わるようになったのは、創刊翌年の4月号からです。毎月同じ絵柄の表紙とはいうものの、それぞれの色が随分違って、デザインでしょうか、当時、カラー印刷の技術が進んでいなかったためでしょうか。

#### 表紙が2つに

最初、横書きでスタートした『ロータリーの友』ですが、その後、俳壇、歌壇など、横組みでは具合の悪い欄が始まり、これらを縦書きで入れることになりました。1972(昭和

47)年1月号から、縦書き、横書きを分けて、それぞれに表紙をつけました。左に開けると横書き、右に開くと縦書きという形の雑誌になりました。両面が表紙になった最初の号の表紙は陣羽織で、横書きは前から見たところ、縦書きは後ろから見たところ、というように、両面表紙の特徴を生かした面白いものになっています。

#### 国際ロータリー公式地域雑誌に

1977年、標準ロータリークラブ定款第10条(現14条)の改定に伴い、公式地域雑誌(現ロータリー地域雑誌)の規定が設けられました。これにより、ロータリアンは、国際ロータリー(RI)の機関誌『The Rotarian』だけでなく、RIが指定した公式地域雑誌を購読することで会員としての義務を果たすことができるようになりました。

『ロータリーの友』は、1979年7月号から1年間の試験期間を経て、1980年7月号からRI公式地域雑誌になりました。公式地域雑誌の要件はいろいろと定められており、また、時代とともに多少変化をしています。

#### カラフルに、ビジュアルに

2003年1月に創刊50周年を迎えるに当たり、これまでの良い伝統は継続しながら、新しい50年のスタートにふさわしい新鮮な『ロータリーの友』にするにはどのようにすればいいのか、2001年秋から検討に入り、2002年7月号から誌面を一新しました。

サイズをB5判(天地256ミリ×左右182ミリ)からA4変型判(天地280ミリ×左右210ミリ)に変更。カラー写真のページを巻頭にもってくるなどして、親しみやすい『ロータリーの友』を目指しました。この時、用紙もカラー写真がきれいに出るように、それまでより白い紙に替えました(2006年7月号からは、さらに白い紙に変更)。

このサイズの変更と合わせて、事務所内でのコンピューター編集に切り替えました。このことによって、それまでより自由な誌面づくりができるようになり、またコスト削減も実現しました。さらに2016年7月号からは、サイズをA4判(天地297ミリ×左右210ミリ)に変更しました。

「ロータリー地域雑誌」の要件の一つに『The Rotarian』から指定された記事を掲載しなければならないという項目があります。写真を郵送していた頃には同時掲載は不可能でしたが、IT技術の進歩に伴い、2004年1月号からは、これらの指定記事が『The Rotarian』と同じ月に掲載できるようになりました。

記事についても、毎年度見直し、新しいコーナーを設ける一方で、古いコーナーを中止したりしています。2004年11月号からは、毎月一人ずつのロータリアンを紹介する「風紋」がスタートしました。外部の記者とカメラマンによる取材記事は、それまでになかったことで、ロータリアンやロータリーを客観的に見た記事によって、あらためてロータリーの良さを知る機会にもなっています。その後、クラブを紹介する「手に手 クラブ探訪」、ロータリアンを職業の面から紹介する「この人 この仕事」、「わがまち……そしてロータリー」、「クラブを訪ねて」と、少しずつ形を変えながら、このシリーズは続いています。また、パズル(「パズル de ロータリー」)や本の紹介(「私の一冊」)のコーナーを設け、より親しんでもらえるよう工夫をしています。